

## 3-7. ジオパーク下仁田協議会（群馬県下仁田町）

### (1) アドバイザー派遣申請の背景

当地域は、2010年より自治体としてジオパーク推進に取り組み、地質や歴史・文化をガイドとともにめぐるジオツーリズムを行っており、2011年日本ジオパークネットワークに加盟した。ネットワーク加盟後、知名度が段々上がってきたことや、地域においても持続可能なツーリズムを続けるために、より一層、地域住民と手を取った活動が必要とされてきた。

当地域では、近年富岡製糸場と絹産業遺産群の構成資産の荒船風穴が世界遺産登録も目指している。世界遺産のガイド養成においても、自然の成り立ちと歴史的背景に大きなつながりがあるため、2012年8月「下仁田ジオ・歴史遺産応援団」を立ち上げ、歴史も自然も語れるガイド養成講座を実施して、より多くの地元の人が来客者をもてなせるような体制づくりを行っている。そこで、今回は先進的な活動を行っている飯能市エコツーリズムの実践内容等を紹介していただき、今後のジオパーク推進に活かしていきたい。



### (2) アドバイザー派遣の概要

日 時	平成 25 年 1 月 29 日（火）～平成 25 年 1 月 30 日（水）
場 所	視察：下仁田町自然史館、ジオサイト（クリップ散策コース等）見学 講習：下仁田町文化ホール・下仁田町役場
アドバイザー	公益財団法人日本生態系協会 地域計画室長 城戸 基秀 氏
参加者	下仁田ジオ・歴史遺産応援団員（ジオパーク関係職員を含む）、教育委員会ジオパーク推進室、文化財保護係、企画財政課企画調整係、産業振興課観光係 合計 35 名
スケジュール・方法	<b>【1日目】</b> 講義内容打ち合わせ及び自然史館案内とジオサイト案内解説 下仁田町の歴史解説を含む町内歴史遺産の案内、講義（質疑応答）、懇親会（質疑応答を含む） <b>【2日目】</b> 関係職員を対象とした講義（質疑応答）、下仁田町の食文化説明



### (3) アドバイスの内容

---

#### ●ジオツーリズムとエコツーリズムの共通性とガイドンスの重要性

- ・ エコツアーの仕組・飯能市の取組例とその効果・ジオツーリズムの発展に向けて

#### ●ガイドの役割と伝える技術力（ガイドの重要性）

- ・ ガイドの役割（安全管理・地域のルールの普及・解説）・ガイド方法等。

#### （視察時/意見交換時のコメント）

- ・ すぐに経済効果を求めるのではなく、地域の魅力再発見であったり地域のまとまりや連携の高まり等が大きな効果である。
- ・ 下仁田町はジオパークだけではなく、歴史的にも街並みにも魅力ある地域であるので、ジオツアーの中に取り込んで幅を広げたらもっと魅力的になる。
- ・ ツアー実施にあってはお客様のニーズに合わせたものだけではなく、飯能型のガイドによる企画、実施されるツアーのような発信型のものも並行実施することが、ジオパークの PR に貢献する。

### (4) アドバイザー派遣の効果

---

#### ●参加者や関係者に与えた効果

- ・ 町村の成り立ち等も似通った環境の参考事例であり参考となるが多かった。また、ガイドによる企画ツアーで幅も広いことからジオと合わせたツアー企画がいろいろ考えられるきっかけづくりとなった。
- ・ 職員においては課を超えての連携強化の重要性を再認識した。また、町のビジョンや目的意識をはっきりさせることも大事であることを学んだ。

#### ●今後の期待される効果

- ・ これまで、応援団の活動は学習会を行う、受動的なものだったが、参加者の感想等も聞くと、今後応援団員独自のツーリズム等も期待できそうである。その際に地域住民がツアーを実施する際のガイドラインをどれだけしっかりしたものが用意するのかが今後の課題になっていくことが分かった。

### (5) アドバイザー派遣を実施して（地域からの声）

---

#### ●参考となった事項

- ・ 外部への発信や交流人口の増加も大事であるが、住んでいる地域の再認識や誇りの再発見等を通じての地域の活力アップが重要であること。

#### ●その他感想

- ・ 今回、同じような地形・風土を持つ飯能市の実践例を聞いてみて、下仁田での今後の PR 方法、及び役場職員が地域住民とともに行う活動の方向性が見出せた。今回のアドバイス講習に参加した各々とジオパークと世界遺産の町としてより良い町づくりに取り組んで行きたいと思います。

## (6) エコツーリズム推進アドバイザーから地域へのアドバイス

---

公益財団法人日本生態系協会 地域計画室長 城戸 基秀 氏

### ●地域におけるエコツーリズム推進の取組の現状

下仁田町は、2008年頃から世界ジオパーク登録を目指す取組を始め、2011年には、日本ジオパークに登録されている。一方、「富岡製糸場と絹産業遺産群」の世界遺産への登録を目指している。こうした町を挙げての取組において、ガイド組織である「下仁田ジオ・歴史遺産応援団」におけるガイド養成や、地形・地質についての解説版の設置、ガイドマップの作成等、充実した活動を行っている。

### ●アドバイス（講義等）の概要

アドバイス（講義等）は、「下仁田ジオ・歴史遺産応援団」の皆さんを対象とした講義、町の関係課（文化財保護課、企画財政課、産業振興課）の職員を対象とした講義、下仁田町ジオパーク推進室の職員との打ち合わせの3つの場面で行った。

#### （「下仁田ジオ・歴史遺産応援団」の皆さんを対象とした講義）

- ・ ジオツーリズムとエコツーリズムは、考え方や対象資源がほとんど同じであり、いずれも、観光振興、資源の保全、地域振興の好循環を目指す取組であること。
- ・ それとともに、ガイダンスとルールが重要であり、ガイドの皆さんが重要な役割を担っていること。
- ・ 埼玉県飯能市を事例とした、地域振興（誇りを持てる地域づくり）を目指すエコツーリズムの説明。
- ・ 下仁田ジオツーリズムの発展に向けて、「地形・地質」を中核としながら、生物、風景、伝統食、伝統文化、歴史等への活動を広げていくことを提案。
- ・ 他に、ガイドの役割や伝える技術について説明。

#### （下仁田町の関係課の職員を対象とした講義）

- ・ ジオツーリズムとエコツーリズムは、考え方や対象資源がほとんど同じであり、いずれも、観光振興、資源の保全、地域振興の好循環を目指す取組であること。
- ・ エコツーリズムの日本や世界の取組について事例を示して説明。
- ・ 埼玉県飯能市を事例とした、地域振興（誇りを持てる地域づくり）を目指すエコツーリズムと地域への効果の説明。
- ・ 下仁田町でエコツーリズム（ジオツーリズム）を効果的に進めるために、対象とする資源を「地形・地質」を中核としながら、生物や伝統食、伝統文化等に広げること、学習を中心としたものにし、楽しみを加えること、ガイドとして専門的知識を持った方だけでなく、一般の地域住民に無理のない範囲で関わってもらふこと、等を提案。

#### （下仁田町ジオパーク推進室職員との打ち合わせ）

- ・ 下仁田町には「地形・地質」だけでなく、伝統食（下仁田ネギ、下仁田コンニャク）建築物、街並み、産業遺産、川の自然、鉄道等のさまざまな資産があるので、これらを活かしていけば、魅力的なツアーができる。
- ・ 注文型のジオツアーに加え、幅広い方が興味を持つ食文化や地域の人のふれあい等の楽しみを加えた、企画募集型のエコツアーを行うことで、より多くの方に訪れていただけたらと思われる。

- ・ ガイドとして専門的知識を持った方だけでなく、一般の地域住民に無理のない範囲で関わってもらうことが効果的。

## ●地域に対する印象、コメント（メッセージ）

世界ジオパーク認定に向けて実際されている、案内板設置、ガイドマップの作成、お土産づくり、学校等の受入（ジオツアー）等の取組を拝見して、町を挙げて充実した取組が行われていることに感心した。また、「下仁田ジオ・歴史遺産応援団」の皆さんの熱心な姿勢や、和気あいあいとした雰囲気には、これから下仁田のジオツアーの取組が発展していく可能性を感じた。

下仁田町には「地形・地質」という他に類を見ない優れた資源や、世界遺産への指定を目指す絹産業遺産、下仁田ネギや下仁田コンニャクという全国的に知られたブランドがあるが、他にも、山や川等の自然、郷愁を誘う街並み等、多くの優れた資源であると感じた。

現在の取組は、「地形・地質」を中心としたものであり、実際に説明を受けると楽しく、知的好奇心を満足させられるものであるが、一方で、「地形・地質」は専門的、学習的な要素が強く、来訪者や、受け入れる側（活動に参加する地域住民）の広がり制限する要因になるとも考えられた。

今後の発展方法として、「地形・地質」と「世界遺産」を中心としながら、受注型のツアーを中心に行う方法と、対象とする資源を自然や伝統文化、街並み、伝統食等に広げながら地域全体で、企画募集型のツアーによって旅行者を受け入れる方法があると考えられる。この2つの方法は二者択一ではなく、どちらかが優れているというものでもない。2つの方法のバランスは、取組の目標をどこに置くかによって変わってくる。機会があれば、一度、これまでの充実した取組の成果を皆さんで確認するとともに、今後の目標やビジョンを再確認していただくことをご提案したい。